

検討会回数 番号	第 5 回 case10
年齢(代)	50 代
性別	女性

S (subjective) : 主観的情報	
主訴	手足の痛み、外的刺激に過敏、不眠
既往歴	頸椎椎間板ヘルニア(x-13 年)、右肩関節石灰沈着性腱板炎(x-8 年) (アレルギー) (手術歴)なし (出産)なし (事故)不明
家族歴	(父) (母) (兄)高血圧症
現病歴	(医師による診断名)線維筋痛症 (発病様式・内容・経過) x-1 年 2 月頃より痛み症状を感じ始める。 サルコイドーシス専門クリニックに行きつき、線維筋痛症の診断を受ける。プレガバリンカプセル(容量不明)とクラリスロマイシン錠(容量不明)の処方を受ける。 x 年 1 月、症状の改善が思わしくないとの事で来院(再診)。 (服薬)漢方(漢方クリニック)、プレガバリンカプセル、クラリスロマイシン

O (objective) : 客観的情報	
初診日	x 年 1 月
所見(脈・舌・バイタル等)	(バイタル) (脈) 濇、数 (舌) (顔)赤黒く脂っぽい (硬結) (圧痛) 全身 (腫脹)下腿むくみ

A (assessment) : 評価	
評価・弁証	(弁証) 肝気鬱結 (評価法) 中医学 (流派)

P (plan) : 計画 (治療)	
計画・治療・指導	(取穴)百会、太衝、擦過・接触鍼、光線療法、背部俞穴に点灸 (4 回目)翳風、足三里、三陰交、背部俞穴反応点を加える (刺鍼法) 接触鍼、浅置鍼 (時間)置鍼 10 分、施術時間 50~60 分

	(得気)無 (深さ)2 mm
	(頻度)1/w を 5 回
	(指導) 食事：理気を目的として軽くて香りのよい食材、かんきつ類、さわやかなハーブ 運動：太陽礼拝、ラジオ体操など
経過	x 年 1 月の初診後、すぐに漢方との併用が効果的と考え漢方クリニック受診を提案した。 x 年 2 月漢方クリニックを受診。 鍼灸は 1/w のペースで 4 回の施術を行った。 1 回目施術時は触刺激でも疼痛を誘発し、ほとんど触れない状況であったため、点灸や光線療法、接触・擦過鍼が中心。 4 回目で接触刺激による疼痛誘発が少なくなり、浅置鍼、浅い撚鍼による得気刺激も行えるようになった。
特記事項	

症例検討会用シート

部外秘